

岡崎市議会議長 様

支出番号

会派名

無所属・参政党

代表者名

伊藤 正義

以下のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和 7 年 5 月 8 日提出

活動年月日	令和 7 年 4 月 16 日（水）～17 日（木）	
氏名	伊藤正義	
用務先 及び 内 容	1 4 月 16 日	用務先 茨城県水戸市
		内 容 小規模特認校について
	2 4 月 17 日	用務先 栃木県茂木町
		内 容 茂木町有機物リサイクルセンター美土里館について
	3	用務先
		内 容
	4	用務先
		内 容
備 考		

政務活動調査報告書

視察日	令和7年4月16日
視察場所	茨城県水戸市
視察目的	小規模特任校について
視察者名	無所属・参政党 伊藤正義

1. 市の概要

人口 265,583 人（令和7年4月1日現在）、面積 217.32 ㎡、
水戸市は、首都・東京から北東へ約 100 キロメートル、茨城県庁の所在地。地形は、低地地区の南東部、台地地区の中央部、丘陵地区の北西部に分けられる。卸売行、小売業を中心として第3次産業が 86 % を占めている。

2. 小規模特任校について

●小規模特認校制度を導入した経緯、背景について

平成26年に国田義務教育学校で小中一貫校として開校。まだ一貫校が一般的ではないころ。その後小規模特任校制度ができたので、他校区の児童にも入って欲しいということで導入した。既存の取り組みとしてすでにやっていたから特任校に指定した。今は制度利用の生徒数が全児童生徒数の20%にまでなった。さらに特色ある学校で学びたいというニーズがあり制度利用の学校を拡充した。もともと小規模特任校制度を入れる前から、特色ある取り組みをしていたという点が、他自治体と違う点。複式学級が複数年続いた場合は統廃合も検討するが、特色ある学校作りで生徒数を維持する。

●導入に向けた具体的な取り組みについて

行政、小学校、地域で話し合いを丁寧に何度も実施してきた。地域がまとまるように小学校区ごとに地域センターを設置し、コミュニティースクールも全校設置している。一緒に学校作りをしてくれる意識の高い保護者に来ていただきたいと思っているし、参加してもらうように伝えている。

・柳河小学校の英語教育について

もともと茨木市が英会話特区に指定されており、その研究として柳河小学校を指定していた。なぜ英語なんだというご意見があったが、英語ありきではなく、コミュニケーション力を育むということでご説明した。もちろん英語を苦手にする子もいるので丁寧にフォローしている。その結果、みんな英語が好きになって英検取得したりしている。DMMを無料で受けてもらっているのも、その分予算をとっている。

・先生の配については意識して配置している。

●小規模特認校に通う児童生徒の数、申込状況について

児童生徒の数 生徒数（内、制度利用生徒数）

上大野小学校 67名（21）

柳河小学校 53名（5）

下大野小学校 64名（8）

大場小学校 95名（14）

国田小学校 前期82名（27） 後期39名（11）

※各校受け入れ上限は35名。

●制度利用後移住した人数

下大野小学校 5名、国田小学校 1名

●制度利用生徒数の差はなぜ起こるのか

合同説明会を開催しており校長先生がプレゼンを担当している。そのプレゼンテーション能力の差。上大野小学校の先生はプレゼンが上手だから制度利用生徒も多い。特色ある教育を子供に受けさせたいということで選んでもらっていると思う

取り組んでいることとして、

- ・ SNS の活用：Facebook、X など
- ・ YouTube 利用：動画を作成して、市の HP に掲載。

●利用児童の通学方法、家庭による送迎の負担について

通学は保護者の送迎か公共交通機関。保護者の負担があるが理解した上で通学してもらっている。基本は送迎をお願いしている。送り迎え時に学校側と保護者で話をして、顔の見れる関係作りをしたいから。コミュニケーションを大切にしている。

●貴市を参考に進めていくにあたって、他の自治体に対する注意点やアドバイス

地域や関係機関との信頼関係の構築が重要。市民が魅力を感じ入学先として選んでもらう必要がある。小学校だけでがんばろうとしても円滑に行かない。

●児童生徒、保護者、地域住民からの声

アンケート調査をし、その結果以下のような声をいただいた。

- ・ 先生が他の学年の子も把握してくれるので安心感がある。
- ・ 集団に埋もれることなく活躍できる機会がある。
- ・ 上級生が本当の兄弟のように下級生を見てくれる。
- ・ 先生との距離感が近い。暖かいフォローがある。

- ・地元の生徒（制度利用ではなくもともと住んでいる生徒）にも特色について説明して理解してもらう取り組みをしてほしい。
- ・単学級で少人数なのでクラス替えがない。人間関係が拗れたときがかわいそうなので、何か会った時はそのケアをしてほしい。

3. 今度の課題

- ・小規模特任校を卒業した生徒が中学校に進学すると、生徒数が大人数になるためそのギャップに対応することができるのかという点。令和7年度に初の特任校制度利用の卒業生が誕生した。

少しでもギャップを感じないようにするために小学校同士の交流を行っている。近隣の学校とも合同で授業を実施したりしている。オンライン授業も。中学校とも連携している。

- ・今後特任校を増やすことはしないが、ブランディングを高めていかないといけないと思っている。
- ・校長先生の交代

学校の風土に校長先生の色がでるが、新任の校長先生に特色を理解してもらって一緒にやる。

4. 所感

特任校制度を利用するために特色ある学校作りをしたのではなく、もともと特色ある学校作りをしており、その後制度ができたというお話しが最も印象的でした。他の自治体の視察がよくあるが、制度利用のために特色作りをして進めていっても上手くいかないと言われていた。

児童にもっと良い教育を受けさせてあげたいという想いと、学校、地域、行政、保護者が協力して作っていくことが大切なのだと感じた。

また、制度利用開始してからも魅力が伝わるように発信していくことも大切であり、開始すれば終わりではなく、継続していくための努力も必要であることから、ただ制度利用すればいいという話ではないということがよくわかった。岡崎市の各特任校の状況をもっとお聞きして協力して盛り上げていきたいと思う。



政務活動調査報告書

視察日	令和7年4月17日
視察場所	栃木県茂木町
視察目的	有機物リサイクルセンター美土里館について
視察者名	無所属・参政党 伊藤正義

1. 市の概要

人口 11,258 人（令和7年4月1日現在）、面積 172.69 ㎡、
茂木町は栃木県の南東部、茨城県との県境に位置しています。町全体は八溝山系に含まれ、町土の64%が山林であり、昔ながらの里山の自然や人々の暮らしが残されています。

2. 美土里館について

●開館の経緯、背景について

H13年に完成。もともと茂木町はたばこ産業で栄えてきたが、その後衰退。この施設はたばこ産業で使っていた施設の跡地を利用したもの。

家畜の糞尿と一般家庭からの生ごみ、調整材として粃殻、枯葉、間伐材などの森林資源を利用して有機肥料を製造して農地に還元し、リサイクルを推進することで、自然と調和した環境保全型農業の確立をめざしている。

R6～8年にかけて改修予定。補助金を使用して7億ほどかかる。補助金が新設では使えず、あくまでも改修の場合のみ出る。



●美土里堆肥の特徴

美土里堆肥は生ごみ、牛糞、落ち葉、おがこ、もみがらの5種類の原料を混ぜ合わせ、約4ヶ月攪拌発酵し、臭いもなくサラサラした良質な堆肥。

生ごみ：一般家庭、スーパー、飲食店、給食センターなどから残飯、端材を集めている。

一般家庭は専用の袋を作っているのに入れて出してもらっており、週2回収を行っている。専用の袋は1袋10円。溶ける素材で薄すぎると破れるので、厚さも考えて作っている。

落ち葉：町内の農家に呼びかけて集めてもらったものを買い取っている。10kg 430円。

1農家12万円/年まで。農家さんの良い収入になっている。

鉋屑：事業者から手数料をとって受け入れている。

籾殻、蕎麦殻：無料で引き取っている。堆肥に空気が入るのでふかふかになる。

牛糞：畜産農家が以前は15軒あったが、4軒まで減ってしまった。キロ0.8円(町外1円)で受け入れている。

堆肥の割合は、牛糞8割、生ごみ1割、その他の資源1割。10kg袋660円で販売している。時期によって違うが、多い月で200～300袋売れている。バラ売りも実施しており、キロ5.5円(町外の方は8.8円)



●各装置の機能と特徴

①原料投入棟②円形発酵棟③2次発酵棟④乾燥棟⑤製品棟⑥保管庫⑦液肥化装置棟⑧脱臭棟

以下に一部紹介します。

②円形発酵棟

本プラントで最も重要な発酵の中核を担うもの。25日間かけて70～80度で発酵させる。外側に投入された堆肥が攪拌されながら中央にいく。発酵により発生した臭気は天井の臭気捕集ルーフからブロアにより吸収し脱臭装置へ送られる。



③二次発酵棟

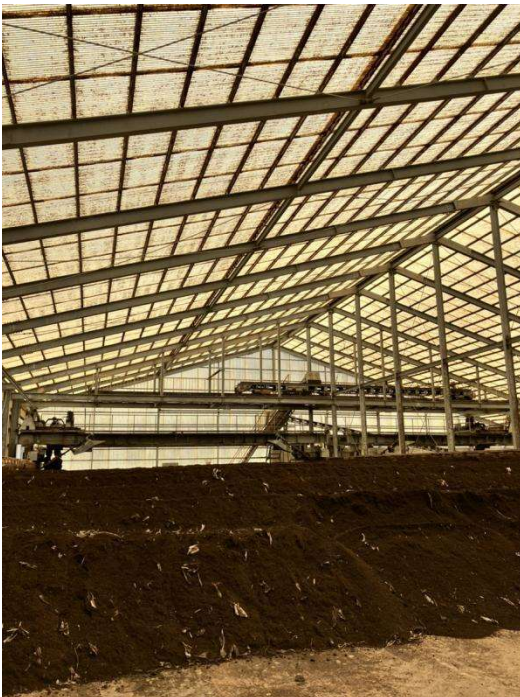
円形発酵棟から地下ピットを通して運んでくる。60度で約65日間かけて徐々に前に運んでくる。

④乾燥棟

水分量が52%以下になるように乾燥させる。

⑧脱臭棟

スギ・ヒノキの樹の皮のみを400㎡高さ1.5mに敷き詰め、下から堆肥化の過程で発生した匂いを送っている。他の自治体の施設ではゼオライトなどを使っている例が多いが、最後はそれが産業廃棄物になってしまう。樹の皮なので17～18年で交換した後は堆肥に回すのでゴミがでない。



●売上状況

黒字。歳入が2,085万に対して、歳出が60万。

●美土里竹粉

利活用されない竹は山を侵食し、里山を荒廃させる。そのため竹を集め、集めた竹のうち使える竹（2割）を堆肥として利用する。高速竹粉製造機があり、1本で10kg作れる。1～2週間発酵させる。乳酸菌が豊富で、いちご農家に喜ばれている。ペットの餌にもしており、竹の堆肥を食べることで糞の匂いが消えた。施設内でも3匹猫を飼っており食べさせている。

堆肥化に向かない竹（若すぎたり、古かったり、枯れている竹）は竹チップにする。10kg=330円で販売。



●美土里堆肥栽培心得から抜粋

作物は天気と土が運命を決める。天気は逆らえないけれども土作りは私たちの努力によって変えられます。土づくりをしっかりとやれば作物は健康に育ち、農薬はいらないのです。

しかし、今の農地は化学肥料を使いすぎ、連作、土壌消毒により良質の微生物まで死滅させています。このため、病虫害の発生をまねき農薬の大量投与、収量減と悪循環を繰り返しています。農薬は農毒薬であって、農業のくすりではない。農業の本当のくすりは美土里堆肥のような微量要素や有益微生物を補う有機質肥料で農地の漢方薬です。

3. 費用対効果と環境貢献

- ・美土里堆肥の売り上げ 1,200 万円
- ・生ごみ焼却費用の削減 1,200 万円
- ・畜産経営による環境汚染防止 酪農家5戸の家畜糞尿処理
- ・酪農家の糞尿処理経費や労力の軽減、農家の減農薬、減化学肥料による経費の削減、農薬散布等の労力の削減。

- ・ 剪定枝堆肥化による焼却費用削減
- ・ 学校給食への地場食材供給
- ・ 美土里堆肥栽培野菜や米の学校給食への提供や直売所等での販売により、地域住民への健康の促進

4. 今度の課題

- ・ 畜産農家の減少
- ・ 施設の老朽化（令和 6～8 年度に大規模改修）
- ・ 需要と供給のバランス（原材料・副資材の在庫過多）
- ・ 新エネルギーの開発（副資材の発電利用など）

5. 所感

岡崎市はオーガニックビレッジ宣言をしており、有機農業を推進していくという点で堆肥についても促進してはどうかということで視察をしました。視察を通して、このリサイクルセンターは堆肥利用での有機農業の促進だけでなく、ゴミのリサイクル・削減、環境保全、雇用の創出などにも役立っており、とても良い施設であると思います。

岡崎には国・県の補助金を使って作った民営の葵堆肥センターがあり、老朽化が進んでいます。ここを民営のままもっと活用できるようにという話をお聞きしましたが、美土里館のように改修を機にもっとリサイクルという点でも活かせる施設に変えていけるように市が関わってもいいのではないかと考えます。

また、美土里堆肥栽培心得にもあるとおり、人間が土に触れること、一次産業を蔑ろしにして自然を壊し、土をダメにして微生物を死滅させ、その結果、自分たちの食、生活に悪影響を与えています。自業自得です。今こそ本当に守らないといけないものはなにかを考えて対策をとっていく必要があります。

